

立ち位置

今回は、僕がダイアログの場をつくる時に意識している、自分の立ち位置を紹介します。

ダイアログの場をつくるにあたって、僕はファシリテーターという役割を担うことが多く、僕はその役割の中で中立な存在として場を促していきました。あくまでその場に生まれたものを信頼し答えとする場をつくります。逆に結論をどこかに導くような場には僕は関わりたくありません。

そんなことを言っても僕も人間なので、自分の感情や思いなどで無意識に質問が偏ってしまうこともあるので、そんな状況を起こさず中立にその場に関わるために意識しはじめたものです。

仲間とダイアログしながら学び合う、そんな環境をつくりたい人が1歩を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

真ん中で待つこと。そしてお寺の鐘のように、鳴らされるまでは響かせないこと。これが僕がファシリテーターをしている時のスタンスです。

今回の「立ち位置」では、「真ん中で待つこと。」の方のスタンスについて話を進めていくのですが、真ん中とはいろいろな対極の存在における真ん中です。ひとつの軸の真ん中ではなく、複数の軸の真ん中を指します。ポジティブとネガティブ、依存と自立、客観と主観、右脳と左脳などなど、いろいろなものの真ん中です。

例えば、いつもポジティブな人がいるとします。ある時、その人がダイアログの場に参加してくれたのですが、その時にあり得ないくらいネガティブな発言ばかり。「おかしいな...」と思ってまわりを見ると、他の参加者である3人が先にポジティブなポジションをとったらしく、この場の役割として彼はネガティブな存在を受けとったようです。

「なんだそれは！」と思うような話かもしれませんが、人は場の役割を瞬時に受けとり、その役割で場に参加します。これは人が持っている能力のひとつと思っています。そして、そのバランスがプラスマイナス0になるという絶妙なバランスも同時に生まれてしまいます。

例えで出した彼をポジティブに戻すには、僕がネガティブを引き受ければいいのですが、それだとその後中立的に場を促すことができないので、その時に僕が行うことが真ん中で待つことです。

なにが起きてもあせらずに真ん中で待ち続けながら場をつくると、自然と他の人たちが真ん中に寄ってきてくれます。その理由は、ポジティブでもなくネガティブでもない状態が自然な状態です。

ではもうひとつ、講師と受講生、先生と生徒など、人にインストラクションする場合を例に話をしてみます。その時は明確に、教える人、教わる人と言う関係がそこに存在します。その多くは教える側が上側に存在し、教わる側が下側に存在し。

教わる人すべての存在を合計したものと、教える人ひとりの存在はプラスマイナス0で表されることになります。もし、その流れで学びをアウトプットする場をつくるために、真ん中の立ち位置に戻るためにはどうすればいいのでしょうか。

ここにダイアログの場をつくる上で、真ん中で待つという立ち位置を保つポイントが隠されていると僕は確信しています。

例えば、アンカリングのような、見たり動作をすることで元に戻るためのテクニックもありますが、それらを活用してもまた上側のポジションに戻ってしまうなど、立ち位置を変えられない人も存在します。そんな時、真ん中に戻るためにはその場以外の日常でのスタンスが重要になってくるようです。

僕はファシリテーターをするうえで何か落ち込むことがあった時にすぐに真ん中に戻れる自分でありたいので、日常的に対極である喜んだ時もすぐに戻るように心がけてきました。落ち込んだ時の自分の内面をきちんと見つめることができるタイプの出来事だと、すぐに真ん中の自分に戻ることができます。今はそれを自然に、とくに意識せずに行えるようになりました。

講師と受講生の上下の関係性から真ん中の状態に移動できない人は、普段の自己充実感が低い可能性があるようです。日常的に心が満たされていないと、講師であるその瞬間の満たされた自分を手放すことができにくく、講師に依存してくる受講生に依存する、そこに陥るとアンカリングなどのテクニックでは真ん中には戻れないようで。

日常とワークショップの関係は、いわゆるハレの日とケの日で、非日常は日常をより良くするために存在します。それが逆転して、満たされない日常を癒すための非日常になると、真ん中という立ち位置に立ったり、役割に応じて自由に立ち位置を変えることは難しいでしょうね。

基準ひとつにしても、自分や相手の基準、そして場の基準など、複数の基準がダイアログの場に存在しています。ダイアログの場をつくる中で扱うのは、あくまで場にある基準で、事前に決めていない基準はあとから決めることができません。そんな曖昧な状態で自分側に引き込んだことは、場を支配することだと私は思っています。ファシリテーターというよりはコントローラーといいですか。

そうではなく、あくまで中立な立場でお互いの想いを尊重し合いながら、ゴールや目的に向かって納得できる場をつくること、それが僕の理想とするファシリテーターであり、ダイアログの場をつくる人です。そんな風に促される場には妥協ではなく協調が生まれてきます。

場を信頼すること、それはその場で起きることを信頼し、その場にいる人を信頼、何より自分自身を信頼することになります。それを確認することにもなるダイアログの場をつくる時に向かって、まずは日常で自分自身の心を充たすこと、それを意識してみてください。

場を促す人の在り方は、日常に存在しているものであり、ハレの日だけに急に表れるものではないと僕は思っています。

今回は「立ち位置」のお話をしました。次回は「傾聴」のお話をします。

今回の内容に関して「こんな風に活用してみた」とか、「もっと具体的なことが聴きたい」とか、もしくは今回の内容で感じたことがあれば、「みんなのダイアログ」に投稿してください。

そこで学び合いながらダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>